

令和5年度 図画工作科美術科 研究のまとめ

天野 紳一・重本 優紀・島谷 あゆみ

1. 研究会等で明らかになった教科等の資質能力の具体

(1) 小学校図画工作科 6年「私小説～i-novels『私の青空』」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業 構想力	児童が自分に関する作品を作りたいという意識を持って表現していた。 子どもたちは主体的に自ら進んで表現しており、授業が終わってもなお、表現を続けていた。	児童がそれぞれ自分なりの見方や感じ方, 感覚, 感性を存分にはたらかせながら主体的, 追求的に取り組むことのできる目標設定をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・見方や考え方を広げる ・自己理解の深まりへの支援 ・興味関心 ・主体性 ・目的の明確化 ・学習と生活とのつながり
		十分に試行錯誤できるような学習環境の整備と時間の保障に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを用いた導入を通して ・教材への導入 ・具体を考える ・理由を考える ・つなげて考える ・思考の表出 ・表現の工夫のための支援
授業 実践力	動画制作にすいすいと取り組んでいた。 子どもたち一人ひとりが, 自分の Beautiful & Emotional な「青空」を表現していた。	十分に試行錯誤できるような学習環境の整備と時間の保障に努める。(同上)	<ul style="list-style-type: none"> ・見方や考え方を広げる ・意見の共有 ・価値の捉え直し ・制作のための支援 ・興味関心 ・多様な考え方を知る ・主体性 ・協働的な学びへの支援 ・関わりへの支援 ・視点の明確化 ・安心感 ・フィードバック ・前向きな言葉かけ

授業 分析・ 評価力	自分の作った作品を見てほしい！見せたいというパワフルな感情の発露が見られた。	振り返りのための振り返りではなく、学習過程の中に自然と位置付いた振り返りの方法と場を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の目標につなげる ・学習と生活のつながり ・気づきを促す支援
	「この色がいいね」「〇〇な感じがしていいね」といった教師の言葉を受け、児童は改めてその良さを自覚していた。 達成感や満足感、さらなる意欲を抱いていた。	児童の多様性を温かく共感的に受け止め、価値付けるとともに、個々の思いの具体化のために必要に応じて適切な支援や働きかけを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・身についた力に気づくための支援 ・教師の価値付け ・表現を深めるための支援

(2) 中学校美術科 1年「しのめ文様～身近な形でパターンづくり～」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業 構想力	○参考作品の4パターンを見た時に「すごい！」と言っており、見え方が変化して新たな視点を持つことができていた。	・文様の方向や並べ方で見え方が変わること気付けるよう、参考作品を使って比べられるようにした。	・見方や考え方を広げる
	○「失敗したから嫌だ」と言っていた生徒が絵を回転させて並べて自分の絵の良さに気づき新たな価値を生み出していた。	・タブレットを用いて組み替えを行うことで、形を組み合わせたときのつなげ方の工夫を試行錯誤しながら考えることができるようにした。	<ul style="list-style-type: none"> ・思考の表出 ・表現の工夫のための支援
授業 実践力/ 授業 分析・ 評価力	○アイデアスケッチの段階で教師が指導して気付くのではなく生徒が実際に連続させてみてから気付く姿が見られた。	・ワークシートに書かれた思いを参考にしながら生徒が表したい内容をよりよく見せるためのアドバイスをした。	<ul style="list-style-type: none"> ・制作のための支援 ・理解の深まり

2. 研究についての考察

今年度の研究を通して、図画工作科美術科本来の魅力に迫るための教師の資質能力を表1に示すように再検討した。

表1 図画工作科美術科本来の魅力に迫るための教師の資質能力

資質能力	図画工作科美術科が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力	<ul style="list-style-type: none"> ○学習者の実態を踏まえた題材設定および導入 ○学習者と指導者、あるいは学習者相互の目標の共有 ○試行錯誤を可能にする環境設定→「やってみよう」「やり直そう」「こんなやり方ではどうかな？」
授業実践力	<ul style="list-style-type: none"> ○目標に基づいた上で、より多くの視点をもった学習者個々の主題追求を支える即時評価とアドバイス→児童・生徒理解
授業分析・評価力	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの授業を分析・評価し、次時へつなげる改善点を明確にする ○ループリックの在り方をより柔軟に捉え直す <ul style="list-style-type: none"> ・題材を通して全ての学習者に習得させたい内容に関するループリック ・個々の児童・生徒のめざす目標の到達度を測るためのループリック ※いずれの場合も学習者と指導者との間で共有することを前提とする

本研究を通じた成果と課題を以下のようにまとめた。

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・レディメイドな授業ではなく、児童生徒の多様な実態に合わせてやり方を変化させオーダーメイドの授業を構想する資質能力、児童生徒の見方や感じ方の幅を広げたりしていく資質能力が、図画工作科美術科の教員に求められることが分かった。また、多様な児童生徒に合わせていくには、教育の技術(理論を利用し多様に変化させていく)が必要であることが分かった。 ・児童生徒のつぶやきから授業を発想したり、自分を表現したくなるような題材の手渡し方をしたりすることができた。 ・児童生徒と教員の信頼関係が、授業の中での安心感に繋がっていた。目標を明確に提示した後は、指示を少なくしたり十分な活動時間を確保したりする環境を作ったことで、児童生徒は主体性をより発揮していた。授業後も、学習内容と日常生活を結び付け、学び続ける姿が見られた。 ・タブレット・スクリーンを効果的に活用した授業作り、見通しを持ちやすい板書ができた。タブレットを使った試行錯誤の方法が主体性を引き出した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団と個が関わる活動における個々の評価、多様な価値観が生まれる教科のもとでの評価、構想段階の評価が難しい。 ・情報モラル・肖像権遵守等の学校体制を作る。